

癌化学療法名 顕微鏡的多発血管炎 リツキシマブ単独療法

実施部署	入院・外来	1クール日数	28day(4回)	承認済	2014/2/13
番号	抗がん剤名・略称	1日投与量	投与方法	投与日	
1	リツキシマブ: リツキサン	375mg/m ²	div.(点滴静注)	day1,8,15,22	
2					
3					
4					
5					
コメント	<p>・インフュージョン リアクションは、通常初回開始後30分～2時間後より現れる。重篤なインフュージョン リアクションの80%は初回投与に発現している。</p> <p>・リツキサン投与30分前に、抗ヒスタミン薬(レスタミン10mg 3錠)、解熱鎮痛薬(コカール錠200mg 2錠)の内服を検討する。</p> <p>・生食又は5%ブドウ糖にて10倍希釈する。</p> <p>・点滴速度は、初回投与時最初の1時間は50mg/hで開始し、患者状態を観察しながらその後30分毎に50mg/hずつ最大400mg/hまで上げるができる。</p> <p>・血圧低下や気管支痙攣・血管浮腫などの症状が発現した場合は、注入速度を緩めるか中止する。投与を再開する場合は、症状が完全に消失した後、25mg/hの注入速度で開始する。</p> <p>・リツキサン治療開始前に、まずHBs抗原を測定が必要、定期的(1回/月)HBV-DNA定量を行う。モニタリングは治療終了後少なくとも12カ月はまで継続して行う。ASTとALTのフォローアップも行う。</p> <p>・感染症の発現に注意する。</p> <p>・血管外漏出しても炎症を生じない。温あみぽを初日繰り返し、薬液を分散促進させるために加温マッサージ。</p>				
投与日	薬剤名		ルート	時間	
day1	リツキサン投与開始30分前にレスタミン錠10mg 3錠、コカール錠200mg 2錠を内服する			15分	
	① 生食50mL		div.	15分	
	② リツキサン 375mg/m² + 5%ブドウ糖 500mL (適量を加え1mg/1mLに調製)		div.	90分	
	③ 生食50mL		div.	フラッシュ	